

木島平村地球温暖化対策実行計画 効果検証

令和7年3月

木島平村地球温暖化対策実行計画の評価・検証について（区域施策編）

①温室効果ガス排出量の削減目標及び実績

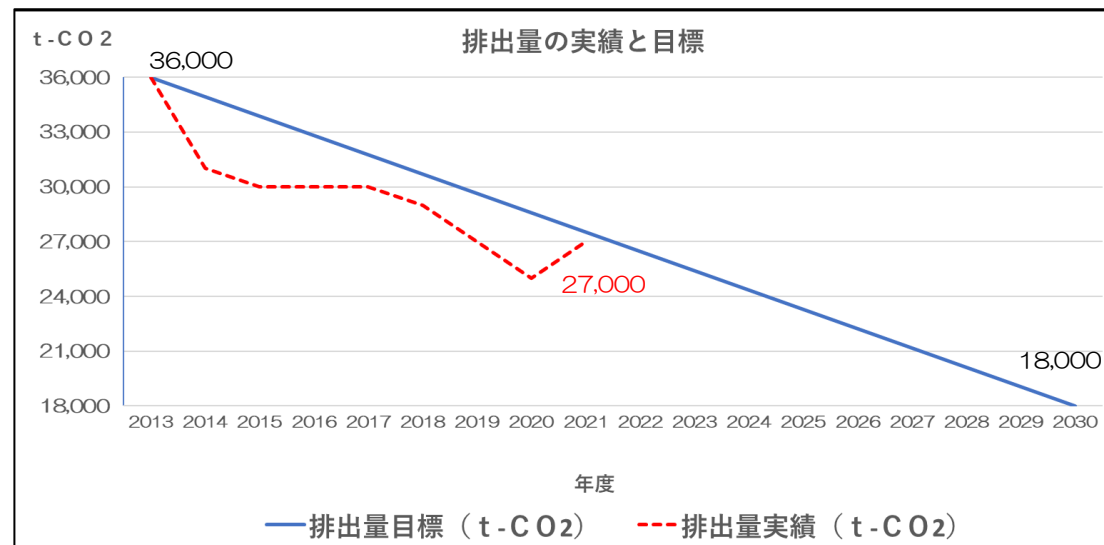
○木島平村地球温暖化対策実行計画（区域施策編）で定める木島平村全域から排出される温室効果ガス排出量の削減目標は以下のとおり

年度		削減目標	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)
基準年度	2013（平成 25）年度	-	36,000
目標年度	2030（令和 12）年度	50%減	18,000

温室効果ガス排出量の実績

	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	基準年度比 CO ₂ 排出量	基準年度比率
2013 年度	36,000	—	—
2014 年度	31,000	△5,000	△13.89%
2015 年度	30,000	△6,000	△16.67%
2016 年度	30,000	△6,000	△16.67%
2017 年度	30,000	△6,000	△16.67%
2018 年度	29,000	△7,000	△19.44%
2019 年度	27,000	△9,000	△25.00%
2020 年度	25,000	△11,000	△30.56%
2021 年度	27,000	△9,000	△25.00%

出展：環境省 自治体排出量カルテ

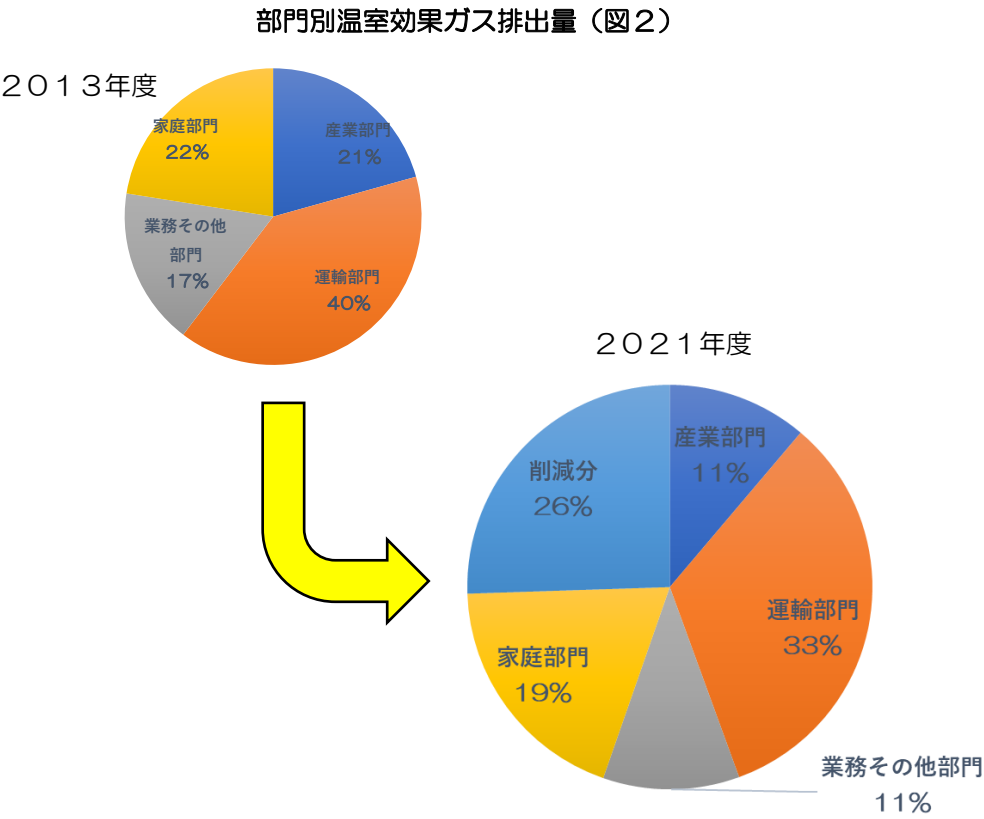
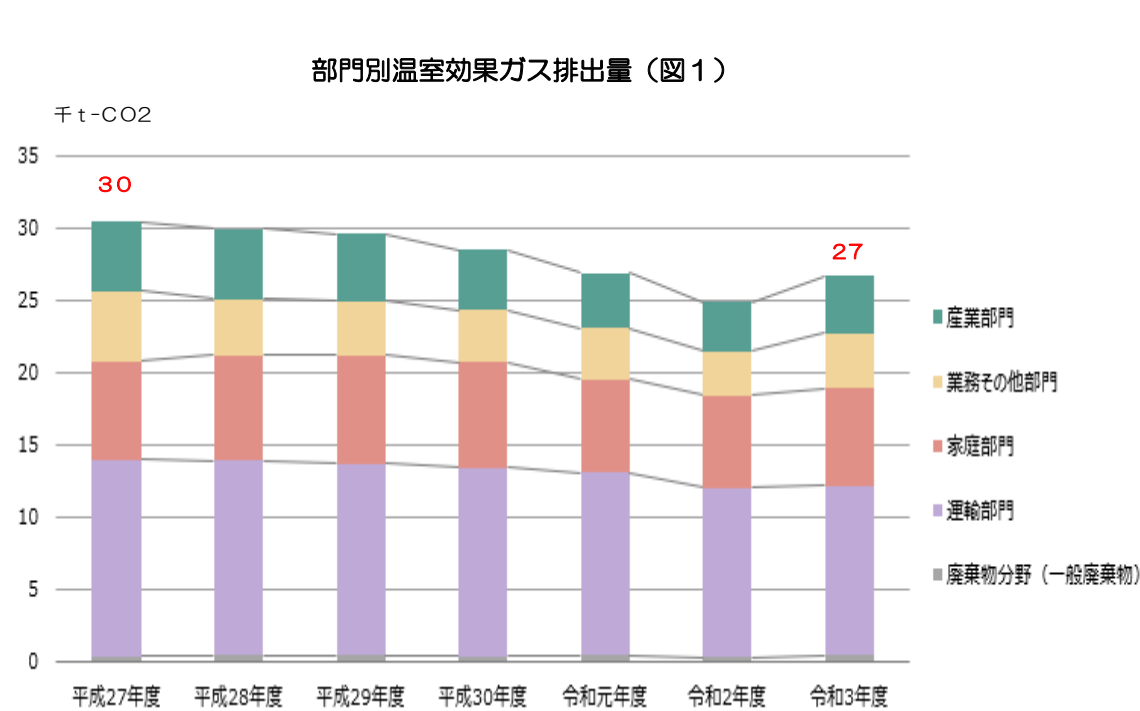


木島平村地球温暖化対策実行計画の評価・検証について（区域施策編）

②温室効果ガス排出量の部門別実績

○木島平村全域から排出される温室効果ガス排出量について、下記のとおり部門別に分析する。

対象部門	部門の定義
産業部門	製造業・建設業・農林水産業における工場・事業場のエネルギー消費に伴う排出
業務その他部門	事務所・ビル・商業・サービス業のほか、他のいずれの部門にも帰属しないエネルギー消費に伴う排出
家庭部門	家庭におけるエネルギー消費に伴う排出（自家用車からの排出は、運輸部門で計上します）
運輸部門	自動車におけるエネルギー消費に伴う排出



木島平村地球温暖化対策実行計画の評価・検証について（区域施策編）

○温室効果ガス排出量の部門別分析

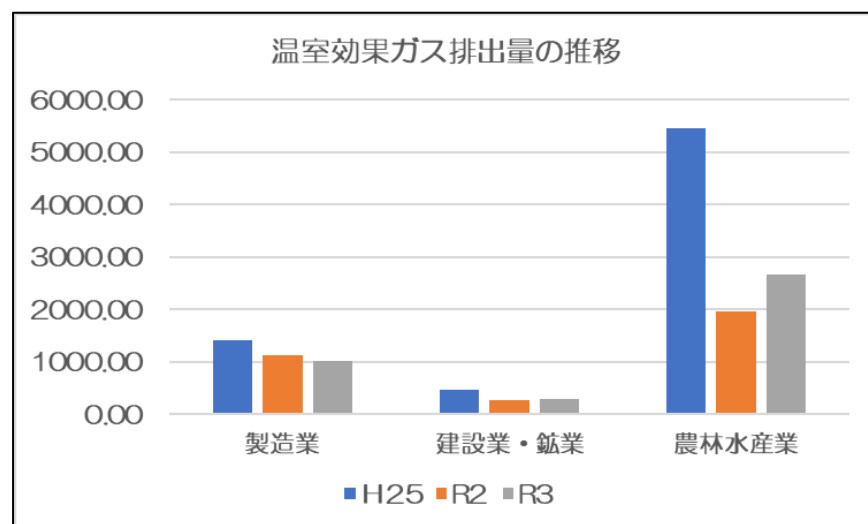
単位：t-CO₂

	2013 平成 25 (基準年度)	2015 平成 27	2016 平成 28	2017 平成 29	2018 平成 30	2019 平成 31・令和元	2020 令和 2	2021 令和 3
産業	7,303.89	4,744.69	4,820.91	4,685.30	4,429.51	3,833.44	3,335.70	3,941.60

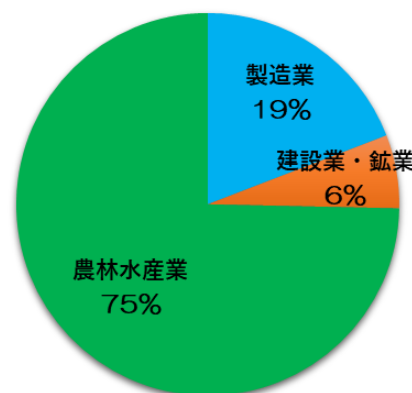
出典：環境省 自治体排出量カルテ

① 産業部門

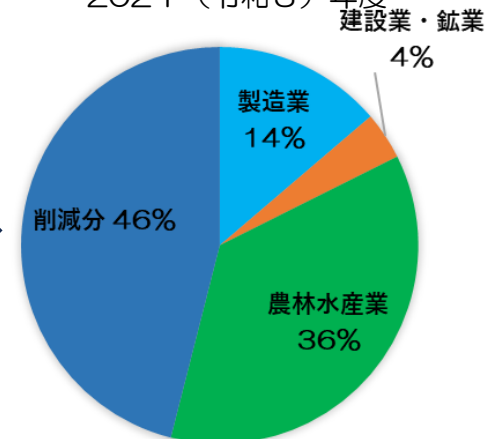
- ・2021（令和3）年度の産業部門における温室効果ガス排出量は約 3,941 t-CO₂ となっており、基準年度である2013（平成25）年度の約 7,303 t-CO₂ に比べ、約 3,362 t-CO₂（46%）の減少となっている。
- ・昨年度からの増加理由として、農林水産業における県全体の炭素排出量が増加していることが要因。
- ・内訳では村の主要産業である農林水産業が半分以上を占めており、この増減が産業部門全体の増減傾向を左右している。
- ・基準年度の2013年度と比べ近年では、3業種とも減少傾向にあるが、特に農林水産業の減少率が高い。



2013（平成25）年度



2021（令和3）年度



木島平村地球温暖化対策実行計画の評価・検証について（区域施策編）

○温室効果ガス排出量の部門別分析

単位：t-CO₂

年度 部門	2013 平成 25 (基準年度)	2015 平成 27	2016 平成 28	2017 平成 29	2018 平成 30	2019 平成 31・令和 元	2020 令和 2	2021 令和 3
業務その他部門	6,062.99	4,862.23	3,930.56	3,734.02	3,555.51	3,479.96	3,108.64	3,840.64
家庭部門	7,952.83	6,818.20	7,258.96	7,440.88	7,272.99	6,468.33	6,511.17	6,735.62
運輸部門	14,031.03	13,625.54	13,499.98	13,285.40	13,058.65	12,632.14	11,788.43	11,732.74

② 業務その他部門

出典：環境省 自治体排出量カルテ

- ・2021（令和3）年度の業務その他部門の温室効果ガス排出量は約 3,840 t-CO₂ となっており、基準年度の2013（平成25）年度の約 6,062 t-CO₂ と比べ、約 2,222 t-CO₂（約 36.65%）の減少となっている。
- ・昨年度からの増加理由として、業務その他部門における県全体の排出量が増加していることが要因。

③ 家庭部門

- ・2021（令和3）年度の家庭部門の温室効果ガス排出量は約 6,735 t-CO₂ となっており、基準年度の2013（平成25）年度の約 7,952 t-CO₂ と比べ、約 1,217 t-CO₂（15.30%）の減少となっている。

④ 運輸部門

- ・2021（令和3）年度の運輸部門の温室効果ガス排出量は約 11,732 t-CO₂ となっており、基準年度の2013（平成25）年度の約 14,031 t-CO₂ と比べ、約 2,299 t-CO₂（16.39%）の減少となっている。運輸部門は温室効果ガス全体の44%を占めていることから、運輸部門の温室効果ガスの排出量が木島平村全体の温室効果ガス排出量の増減傾向に大きく影響する。

木島平村地球温暖化対策実行計画の評価・検証について（区域施策編）

○村内の再生可能エネルギーによる発電電力量

MWh

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
太陽光発電（10kW未満）	50.41	56.65	56.65	64.69	78.01	77.77	77.77	106.57	106.57
太陽光発電（10kW以上）	0.00	0.00	0.00	62.43	62.17	62.43	62.43	62.43	586.25
風力発電	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
水力発電	460.23	520.13	633.61	661.98	535.87	496.88	589.48	602.08	567.40
地熱発電	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
バイオマス発電	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再生可能エネルギー合計	510.64	576.77	690.25	789.10	676.04	637.08	729.68	771.08	1260.22
村内の電気使用量	19,204.81	18,276.68	18,660.29	18,509.67	17,987.26	17,025.31	16,833.06	17,609.83	17,609.83

※太陽光発電については、FIT認定されている施設のみ計上

出典：環境省 自治体排出量カルテ

・水力発電については、流量により発電量が変わるため、年毎に発電量に増減がある。

○新規に太陽光発電設備を導入した件数（2020年度～）

※村の補助金は活用せず設置した場合は目視にて確認。（新築住宅への設置のみ）

	2021（令和3）年度	2022（令和4）年度	2023（令和5）年度	2024（令和6）年度
補助金を活用し導入した件数	—	1件	3件	2件
目視で確認した件数（新築）	1件	0件	1件	0件

木島平村地球温暖化対策実行計画の評価・検証について（区域施策編）

○実施した施策等

自然エネルギー活用関係

- ・住宅用太陽光発電・蓄電設備設置補助金
- ・ペレットストーブ導入補助金
- ・薪ストーブ導入補助金

住宅関係

- ・住宅リフォーム補助金省エネ改修メニュー
- ・住まいづくり促進事業補助金（新築）の
ZEH加算メニュー

農業関係

- ・生分解性マルチ購入補助金

その他

- ・生ごみ堆肥化機器購入費補助金
- ・ゼロカーボンイベントの開催
- ・地球温暖化対策PRチラシの配布

○今後の施策等

・温室効果ガス排出量の削減目標に向け、順調に推移している。太陽光発電の設置について新築も対象とし、また地球温暖化対策としての補助金交付やイベントを実施した。また、引き続き、地球温暖化に対する村民の意識醸成を図るため、広報誌や村公式ウェブサイト、ふう太ネット等でPRをしていく。

また、事業者向けの太陽光発電設備設置に係る助成やハイブリット車・電気自動車導入への助成など、再生可能エネルギー設備や省エネ設備導入へのハードルを下げ、温室効果ガス排出量の抑制に繋げていく。特に運輸部門での温室効果ガス排出量の割合が高いことから、ハイブリット車や電気自動車への転換の促進が効果的であると考えられるが、地域特性上、雪への対応から4WD車である必要があることから、国や自動車メーカーの動向を注視し、普及を促進していく。

木島平村地球温暖化対策実行計画の評価・検証について（事務事業編）

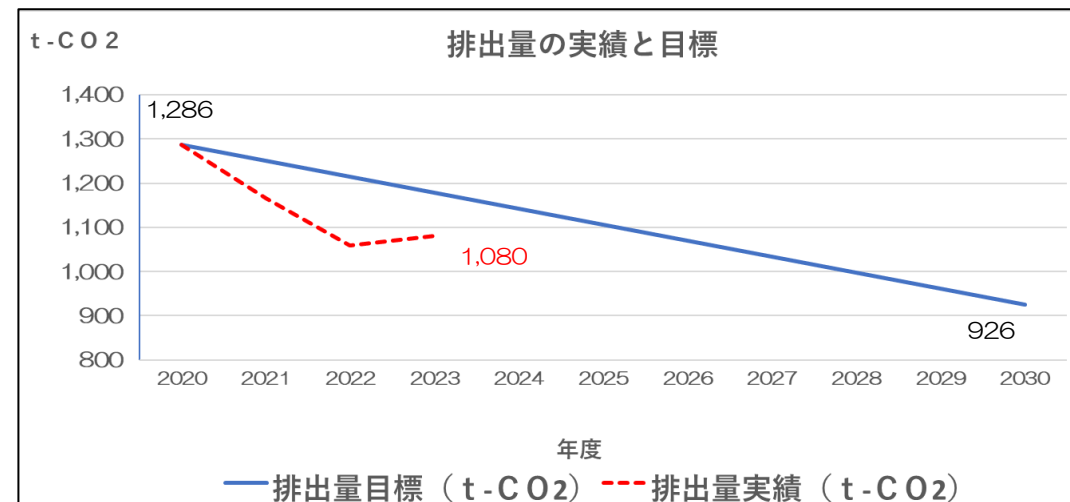
①温室効果ガス排出量の削減目標及び実績

○木島平村地球温暖化対策実行計画（事務事業編）で定める事務事業にて排出される温室効果ガス排出量の削減目標は以下のとおり

	年度	削減目標	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)
基準年度	2020（令和2）年度	-	1,286
目標年度	2030（令和12）年度	28%減	926

温室効果ガス排出量の実績

	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	基準年度比 CO ₂ 排出量	基準年度比率
2020 年度	1,286	—	—
2021 年度	1,165	△121	△ 9.41%
2022 年度	1,059	△227	△17.65%
2023 年度	1,080	△206	△16.01%
2024 年度			
2025 年度			
2026 年度			
2027 年度			
2028 年度			



出展：地方公共団体実行計画策定・管理等支援システムより集計

木島平村地球温暖化対策実行計画の評価・検証について（事務事業編）

②施設別 電気等使用料・温室効果ガス排出量・割合

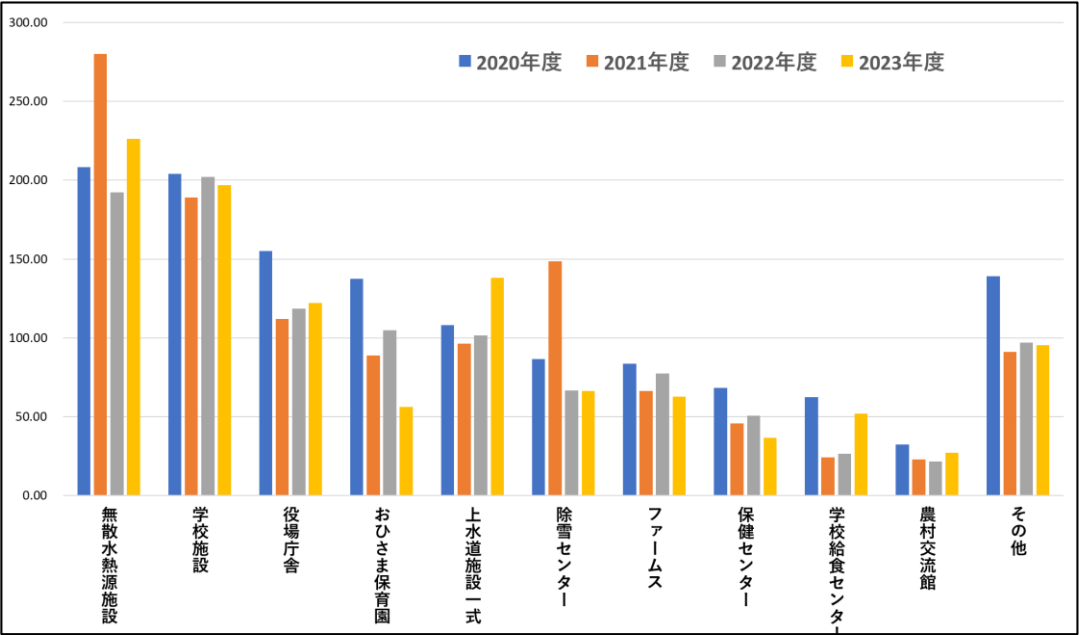
○基準年度の2020（令和2）年度より、206 t-CO₂ 削減をすることができた。無散水熱源施設、上水道施設一式を除く施設で温室効果ガス排出量が削減されている。無散水熱源施設においては降雪による増加、上水道施設一式においては平沢水源ろ過機の稼働が始まったことから増加している。

項目毎の使用量を比較すると、電気・ガソリン・軽油・重油が減少している。電気等の使用量の削減が温室効果ガス排出量の抑制に繋がったと推測される。

年度 \ 項目	電気（kwh）	ガソリン（L）	軽油（L）	灯油（L）	重油（L）
2020（令和2）	1,456,488.3	14,626.0	42,458.2	123,660.7	10,932.0
2021（令和3）	1,456,510.5	13,854.7	68,052.8	151,905.7	14,000.0
2022（令和4）	1,398,163.8	13,442.3	39,161.8	117,965.0	12,000.0
2023（令和5）	1,388,408.0	13478.2	36356.3	131141.1	9,000.0
基準年度と直近年の比較	△68,080.3	△1,147.8	△6,101.9	7480.4	△1,932.0

施設毎の温室効果ガスの排出量

出典：地方公共団体実行計画策定・管理等支援システムより集計

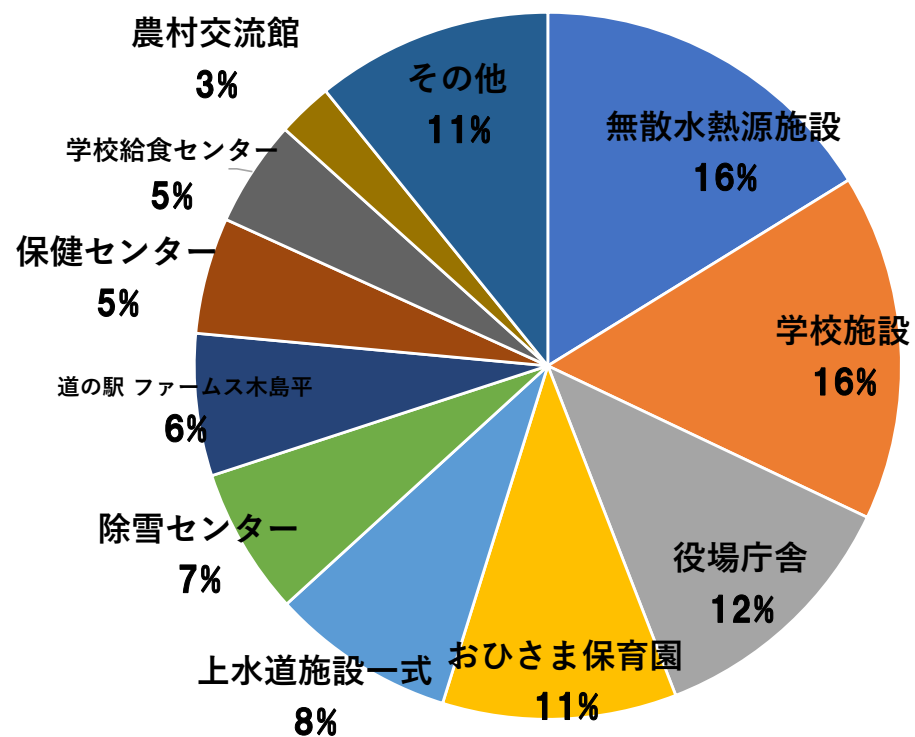


木島平村地球温暖化対策実行計画の評価・検証について（事務事業編）

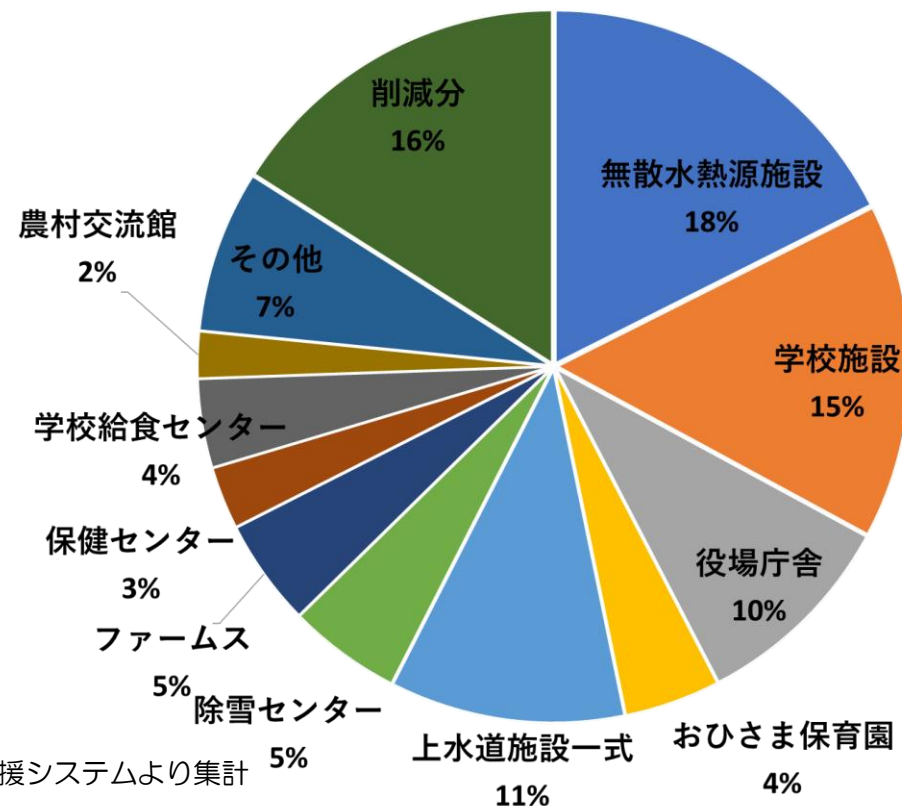
②施設別温室効果ガス排出量割合

温室効果ガス排出量の施設別の割合では、無散水熱源施設及び上水道施設の割合がそれぞれ増加した。無散水熱源施設などの除雪関連施設は降雪量などが大きく影響する。

2020（令和2）年度



2023（令和5）年度



出展：地方公共団体実行計画策定・管理等支援システムより集計

木島平村地球温暖化対策実行計画の評価・検証について（事務事業編）

【実施した施策】

- ◇庁内会議の際のペーパーレス促進
- ◇議会連絡・ペーパーレス用のグループウェアの導入
- ◇公共施設への太陽光発電設備設置のための設計
- ◇空調の適正な温度設定及び運転時間の徹底
- ◇ハイブリッド車の購入

【今後の施策等】

・温室効果ガス排出量の削減目標に向け、順調に推移している。天候等の外的な要因が数値に大きく影響する部分もあるが、引き続き地球温暖化対策に効果がある施策を実施していく。具体的には、公共施設への太陽光発電設備設置、庁内資料のペーパーレス化、公用車のハイブリット車や電気自動車への転換などを行っていく。